関山の戦死四十人墓

関山の南にある会津藩戦死者墓です。

会津藩の戦死者は、戦死してから約一カ月放置され、十月に入ってから村人によって埋葬されています。翌年に墓が建てられます。

しかし、罪人扱いされたため、会津藩とか氏名を刻むことは許されませんでした。

そのため、「戦死〇人墓」としか表されていません。

戦死者の多くが、鉄砲や刀を扱ったことが無い農民兵なのです。

上米塚から両堂の戦い

一八六八年、九月二日、薩摩藩の軍監、中村半治郎が田島から大内宿に入ります。

『鎮将府日誌』によると

北会津　西軍の進攻と伊達政宗の進攻

「火玉嶺の敵兵を破り進んで、栃沢村を焼き払い」栃沢村に敵軍多数防戦のため、火玉峠まで引き揚げる。」「大田原、肥前、宇都宮は火玉峠より進軍、関山村放火」

九月三日、大内宿から西軍十藩の本隊約一万人が関山に進行。

九月四日、夕方、本郷村から二手に分かれた進攻し上米塚に宿陣。永島兵内宅を屯所とし、中村半治郎が泊まる。新田にも宿する。焼失した家は三十四軒中二十七軒。

九月五日、朝霧が濃いなか、飯寺村に転陣、薩摩藩と宇都宮藩が応援し、河原町に散乱して陣しました。この時、両堂付近まで西軍が進攻しました。

九月八日、朝五時、敵兵(会津藩)四、五十人が福永村に放火。飯寺において長岡藩の山本帯刀ら包囲され殺害されます。

九月十五日、会津藩の秋月悌次郎は、今和泉村に滞在。昼飯を食べているところに敵兵が来たので、村主の山内佐吉の指示で裏の葦谷地に隠れました。御弓新田からは、十九歳から三十歳までの八人が出兵し戦死しています。

宮ノ下、本田の戦い

山口県の岩国藩『建尚隊覚』に一八六八年九月十二日

「城下へ斥候にて罷り出、帰りがけ、残兵宮ノ下という所に伏兵打ち懸り候に付、この日小川浅水討死す」とあり、柳原から二十二人が城下に入ると「道路諸処死人腐乱数を知らず、悪臭鼻を汚す」とあり、戦死者は放置されていました。

宮下まで戻ると、わずか五〇メートルで萱の中から四・五十人が伏せ隠れ連発。蟹川まで退却し小見に後退。翌日、田沢に帰る。

十四日新屋敷、十五日に宮下に宿陣。

十六日新屋敷、新屋敷新田に長州藩、小沢は新発田藩が受持ち十七日高田へ二千人で攻める。

九月十三日『会津戊辰戦史』に会津藩の「吉村、栗村の兵二十人、林の兵十人、宮下村に至る。西兵、小祖(曽)山(本田)、宮下、安田の三所に屯す。東兵これを攻撃して破り、四人を死し、一人を傷く」とあり激戦でした。

戦国時代伊達政宗の北会津進攻

戦国時代、下荒井には下荒井城、小松には小松城跡があり、各集落には館が造られました。その中心的な城が下荒井城で、『大沼郡西十二郷洗井村舘之図』には

「當城築事　元徳年(一三二九～三一)也　富田監物祐義ヨリ世々勤番ノ屋舎トナス　天正二及ンテ美作守氏實カ二男洗井三郎二郎實積ト云置レタリ　洗井ハ富田ノ同姓ニシテ万五郎カ家ナリ」

とあり『富田家年譜』には

「芦名直盛二男　佐原左金吾(さえもん)盛久(八代詮盛・康安二年、寶壽院の恵祥を招き鐘楼を寄付『葦名由緒考証』)是康暦(こうりゃく)ノ頃ナルヘシ　(一三七九～一三八一)天正(一五八九頃)ノ頃冨田滋實(しげざね)居」

と、城が築かれましたが、天正十七年(一五八九)六月五日、伊達政宗の進攻により、北会津町の北部を中心に、城と寺社、集落の半分は焼かれました。

「下荒井邑古墨之図」

図・写真・文　©石田明夫2018　問合せTEL・Fax 0242-24-3423　090-1378-8087
メール・ホームページ「考古学から見た会津の歴史」で検索